



応援します、生涯学習 — ふえる知識と仲間の輪

平成30年7月1日発行

あい風通信

37号

(学びのスタンプ通算44号)

協働と連環

いしかり市民カレッジ運営委員長 林 一元

「いしかり市民カレッジ」の運営組織が発足し本年で10年の節目を迎えます。その特徴は「市民ボランティア組織」と「石狩市」との協働運営にあり、講師を含む「市民」の皆さんの理解と支援によってその活動が維持されています。すなわち「市民—ボランティア—市」3者の繋がった輪（連環）がバランス良く機能・回転している証しでもあります。

講座終了後に講師の方から「受講者が真剣で、良く勉強されており、楽しくやりがいのある講義ができました」との評価をよくお聞きしますし、また、受講者からは「種々の楽しい講座を企画していただきスタッフの皆さんに感謝」の感想も毎回寄せられます。自画自賛かもしれませんが、これらを糧にスタッフ一同この3者関係を維持発展させつつ、より良い講座提供に努めて参りますので、当カレッジを大いにご活用いただきますようお願い申し上げます。

開校10周年記念講演会～多数の参加者を得て盛会裡に開催～



(講師の寺島実郎氏)

開校10周年記念の最初の事業である記念講演会「北海道150年～現状と将来」を5月22日(火)に花川北コミュニティセンターで行いました。予想を上回る約240人に参加していただき、(一財)日本総合研究所会長で多摩大学学長の寺島実郎さんを講師に迎えて開催しました。

講演では125ページの資料集「寺島実郎の時代認識」にもとづき、2015年から30年先の人口減少率が全国で16%、北海道では約26%となり異次元の高齢化が進むこと、高齢者を活かす高齡化社会工学が必要になること、世界経済ではアジア地域の重要性が今後ますます増えること、石狩に関連する日本海物流が重要になることなどについて話され、大変勉強になる貴重な講演でした。

いしかり市民カレッジ展 ～いしかり市民カレッジで学びませんか～

5月7日から27日までの10日間、かでの2・7の9階「情報交流広場(まなびの広場)」で、いしかり市民カレッジ展を行いました。情報交流広場は、北海道の生涯学習に関する資料の収集や展示及び提供を行う所で道民カレッジの事務局も置かれています。展示では、いしかり市民カレッジのしくみや入学方法を掲示。開催講座内容を実際のチラシや講座風景写真で紹介しました。また、開校10周年記念講演会のPRも行いました。近年は道民カレッジ生の受講者が増えていますが、毎年続けているこの展示が多くのだ民カレッジ生の目にとまった結果ではないかと思っています。今後も展示方法を工夫しながら続けていきたいと思っています。



107 連携団体の皆さん 連絡協議会に参加しましょう

いしかり市民カレッジに登録し、連携講座を開催している団体の協議会です。今年は、カレッジと連携団体との関係や現状について話し合います。是非参加しましょう。

日時：7月12日(木)13:30～

場所：石狩市公民館

年度更新手続きのお願い

30年度更新手続きはお済みですか。
お済みでない方は、年会費1,000円と、学びの手帳を持って公民館へおいで下さい。講座受講時にも受付けます。
よろしくお願いします。

事務局(石狩公民館)

電話 0133-74-2249

市民カレッジデータ (6月22日現在)

- 登録者～182人
- 連携団体～107団体



ロゴ制作者
丸山英里子さん

魅力あふれる主催講座のご案内

7～9月

講座5 大人の遠足～夕張を訪ねて～

日時 7月11日(水) 9:00～17:30 講師 夕張市企画課主任 佐近 航氏

日本唯一の財政再生団体の現況を学習する中で、夕張の遺産群を見学し、今後の夕張の展望を学びます。
(6月25日で申込終了)

講座6 石狩歴史散歩 ～本町地区・厚田地区の碑を訪ねて～

日時 第1回 7月14日(土) 9:00～12:30 第2回 7月28日(土) 9:00～16:00

講師 石狩市郷土研究会会長 村山耀一氏

石狩に住んで、石狩のことをよく分からないと話す方が多くいるようです。石狩歴史散歩は、地域に点在する碑(いしぶみ)を訪ね歩くことを主な目的とします。道央では最も古く300年以上の歴史を持つ石狩の今日までの歩みを先人が残した多くの碑や歴史の痕跡を散策します。今回は第1回本町地区、第2回は厚田地区(道の駅)をバスで訪ね歩いて学んでいきます。

講座7 博物館はお宝いっぱい!～博物館へ行ってみよう～

日時 第1回 8月2日(木) 8:30～17:00 北海道博物館・北海道開拓の村

第2回 8月9日(木) 9:00～17:00 北海道大学総合博物館・札幌農学校第2農場

博物館や資料館は、地域の特色を生かした研究や資料が展示され、さまざまなイベントを行うなど地域の人々をはじめ学校・生涯教育で有効活用がなされています。この講座では、道立の総合博物館「北海道博物館」、「北海道開拓の村」、北海道大学の1世紀にわたるさまざまな研究成果等を保存・展示する「北海道大学総合博物館」、「札幌農学校第2農場」を見学します。

講座8 北朝鮮を考える～現状と今後の展望

日時 第1回 9月1日(土) 10:30～12:00 第2回 9月8日(土) 10:30～12:00

場所 花川北コミュニティセンター

講師 北海道新聞報道センター、元ソウル特派員 松本創一氏

先が見えない北朝鮮情勢について、その歴史や国民生活の現状・アメリカのトランプ政権とのかかわり、今後の北朝鮮や日本への対応など北朝鮮を取り巻く現状を学びます。

講座9 続々・北海道150年物語～開拓に大きく貢献した人々～

日時 第1回 9月15日(土) 講師 ノンフィクション作家 合田一道氏

第2回 9月22日(土) 講師 ノンフィクション作家 北国諒星(奥田静夫)氏

第3回 9月29日(土) 講師 元とわの森三愛高等学校長・野幌キリスト教学園理事長村山昭二氏

場所 花川北コミュニティセンター 時間 10:30～12:00

蝦夷地が北海道と命名され、今年で150年になります。未開の地に多くの先人たちが新しい北海道の設計と開拓に取り組みました。この度は「北海道開拓の父」と呼ばれた開拓使の初代首席判官を勤めた島義勇、幕末に浜益の庄内藩陣屋に勤め、後に開拓判官となった松本十郎、「日本酪農の父」と呼ばれ、酪農学園の創設者黒澤西蔵を取り上げます。

講座10 北海道のワインを知ろう!

日時 9月5日(水) 13:30～15:00 花川北コミュニティセンター

9月13日(木) 8:30～13:00 三笠市 山崎ワイナリー見学

講師 酒井酒店・JSA認定ワインアドバイザー 酒本のぶ子氏

今北海道には、たくさんのワイナリーがあります。そのワイナリーの知識を深めるとともに、ワインの原料となる葡萄の収穫時期にワイナリーを見学します。ワインに興味のある方はもちろん、ない方もワインの世界というものを感じてみませんか!

受講者の声

講座終了時に受講者の皆さんからいただいた感想・ご意見を要約して紹介します

平成 29 年度 講座 16「笑って延ばそう健康寿命～笑い与健康の深い関係～」

「健康寿命の維持には、毎日の生活の中で笑いがいかに重要なのか医学的根拠と実証により、よく理解できました。家族はもとより社会生活の対人関係の対応には笑顔を忘れぬよう留意したいと思いました」

平成 30 年度 講座 1「北方領土と北海道」

「北方の海でどのような事が行われていたのか、その現状が良く分かりました。領土問題が色濃く漁業に影を落としているという事。本田氏はその背景を具体的な資料で語ってくれたので、現状が良く分かりました」「北方漁業の事は新聞等で読んでも良く分からないことが多かったが、その歴史的な経緯、背景、実情がよく分かりました。大変参考になりました」「日口に関する記事を新聞連載で読ませていただきましたが、ご本人から直接そのお話を聞けて良かったです」「道新編集委員の本田良一様の講演を聞く機会を得て大変良かったです。運営委員の皆様には何時も素晴らしい講座を企画していただき感謝申し上げます」

講座 2「騙されない為に～騙される仕組みを知る～」

第 1 回「『自分は騙されない』と多くの人が思っていますが、本日楽しい手品にいとも簡単に騙されました。これはとても楽しいのですが、この事が金品に絡む大きな問題につながると考えると、やはり疑う目を養わなければならないと思います」第 2 回「心理的な面から自分をチェックできおもしろかったです。TV コマーシャルが見ている人の様々なタイプ・性格に合わせて、弱点に迫るように考えて放映しているか理解できました。その気になって信じてしまいそうな内容もあり、恐ろしさも感じてしまいました」第 3 回「多くの人が自分は大丈夫と思っていますが、もっと年齢を重ねるとどうなるかわかりません。やはり今のうちから用心し、注意する心がけが大切ですね。犯人の生の声を聴けたのは大変貴重な体験でした」

講座 3 アイヌの側からみた北海道 150 年

第 1 回「アイヌ民族の歴史の中で、強制移住の件は『対雁の碑』で知っていたが石狩市に関する詳細なお話で初めて知ることが数多くあった」第 2 回「同じアイヌでも、住む地域によって使っている言葉や生活文化も色々違っていったようで勉強になった」第 3 回「今のアイヌの方々の心の内がこの講座を通して大変理解できた。私自身の有様をしっかりと考えていきたい。又、歴史認識をさらに深めていくことの大切さがわかった」

講座 4 躍進する石狩湾新港～先端企業を訪ねて～

「今迄、簡単にリースと考えておりましたが、2つの徹底した管理状態に感動しました。トレイも一枚一枚、人手をかけていること、私達には使用済と思っていたものが永久にリサイクルされるとは……。働いている人達にも感謝です」



カレッジ生夏季交流会

野外バーベキューへのお誘い

日時：7月19日(木)午後5時30分～
雨天順延⇒20日(金)
場所：サスイシリの杜(花川北7-2-600)
参加費：1,500円
申込先：いしかりし市民カレッジ事務局
石狩市公民館 ☎ 0133・74・2249

いつも講座で顔を合わせる運営スタッフとカレッジ生とで交流し、楽しいひと時を過ごしましょう。お待ちしております。

編集後記

37号をお届け致します。ところで、本来最後にあるべき編集後記がここにあるのを奇異に感じられると思いますが、今回は「ひろば」の記事が長く、押し出されるようにこの位置になってしまいました。それだけに、母なる川「石狩川」とこぼれ話は、読み応えがあると思います。また、240人の方々に聴いて頂き大変好評だった寺島実郎氏の10周年記念講演の報告記事も掲載致しました。

今後も出来るだけみなさまに喜んで頂ける紙面づくりを目指していきますので、どうかよろしくお願い致します。(Z・I)

チョコっと
いしかり学
《 5 》

母なる川「石狩川」 ～石狩の地名はこの川から～

村 山 耀 一

「わたしたちは、母なる川にサケがのぼる石狩の市民です」これは石狩市民憲章前章の最初のことばです。本庄陸男の著書「石狩川」には「いの一番にこの川を見つけたのは、肥え太った鮭の群れでもあったろうか。それを餌食とするアイヌが、追われながらやってきた。それから永い時代を経て、われわれの祖父のあるものが足をふみ入れたのである」の一節があります。

石狩川は松前藩時代から鮭とは切り離されない歴史と文化をもたらし、明治期の開拓時代から昭和初期にかけては、交通や物資輸送の道として大きな役割を担っていました。石狩の地名はアイヌ語でこの川を表わす「イシカラ・ペツ」（曲がりくねって流れる川）が元になったといわれています。

蛇行するこの川は、明治期に何度も大きな水害に見舞われ開拓民を苦しめました。そのため大正7年から生振捷水路に始まる直線化工事が行なわれ364 kmあった石狩川は昭和50年代までに約100 km短縮され、現在は268 kmとされています。



石狩河口橋から本町地区を望む

日本第3位の長さをもつ石狩川は、平成13年北海道遺産として選定されました。今を生きる石狩市民にとっても大切な川です。これからもこの川の魅力を最大限活用し、未来に向けて暮らしよい町づくりを進めていきたいものと考えます。

市民カレッジこぼれ話 ～講座でたどる 10 周年～

昨年7月発行の33号でご紹介した通り、平成21年4月の開校記念講座は田中實さんの「いしかり人物語～歴史を彩った人びと」でしたが、実はその年度の最後2月に行った開校1周年記念講座の講師も田中實さんだったのです。講座タイトルは「花川地区の住宅団地の成り立ちと発展」でした。開校記念講座は多くの受講者(1回目70名)を集めました。この1周年記念講座の受講者もそれに劣らず75名でした。残念ながらこの時はまだHPを開設していなかった(平成22年に開設)ので、この講座の記録はありませんが、資料を見るとお話は以下のようなものでした。

「花川地区は従来、南は樽川、北は花畔と呼ばれた地域だったが、南地区は昭和40年に民間開発業社により、北地区は昭和48年に北海道住宅供給公社により開発が進められ、昭和51年に南北を統一して花川と命名された」このような内容でしたが、南北それぞれが住宅地として発展していく過程を分かりやすく説明するお話でした。元々他地区から移住してきた花川の人たちは、一般的に地域の歴史の知識が乏しく愛着も薄い傾向がありますが、そんな人たちに今住んでいる所を改めて見つめ直すきっかけを与える講座でした。開校初年度は、まさに田中實さんのお話で始まり、田中實さんのお話で締められたのでした。

(文・石井滋朗)

■ 発 行

いしかり市民カレッジ運営委員会

編集担当：石井、鈴木、徳田、三上、光川

■ お問い合わせ 石狩市公民館

石狩市花川北6条1丁目42

TEL：0133-74-2249 FAX：0133-74-2249

E-mail：kouminkan@city.ishikari.hokkaido.jp

HPアドレス：http://www.ishikari-c-college.com/